

日時：令和2年2月14日（金）

午前10時00分から

午前11時10まで

場所：瀬戸市役所 庁議室

委員の参加者：12名

欠席：1名

委員半数以上出席で会議成立

【議事】

健康福祉部長より、委員の変更について報告

・民生委員児童委員協議会子育て支援部会長の変更により、佐野麻貴委員から竹川典子委員へ変更。

議事進行:会長

（1）子ども総合計画（案）について

①・パブリックコメントの結果について、事務局より資料に基づき説明

・今後のスケジュールについて、事務局より資料に基づき説明

・答申書について、事務局より資料に基づき説明

②委員からの助言（1人3分程度で全員より）

○何度もお話していると思うが、両親のいる家庭においては、夫婦で協力して子どもを育てることがとても重要である。ファザーリングジャパンでも父親の意識を高めるため、父親も一緒に研修や勉強会などに参加するよう、「両親学級」という取組みを推進している。子どもが熱を出した時などに、保護者が当たり前に会社を休めるような社会になって欲しいと願っている。

また、「子ども条例」を制定する、ということで素晴らしいと思うが、名古屋市は平成20年から「子ども条例」を制定しており、今年度、改正に向けた市民からの意見募集を行っている。そこでも「子どもの権利」の視点が大事だといった意見がある。ユニセフの「子どもにやさしいまちづくり事業」が展開されており、5自治体（ニセコ町、安平町、富谷市、町田市、奈良市）で2018年から2年間モデル検証作業が行われている。こうした先進的な取組みを参考にしていけると良いだろう。

○子ども総合計画（案）のp49の子ども・若者総合相談センターの設置は様々な子どもに関する連携先となりとてもありがたい。p49以降に書かれている事業、取組みは、これまで本当に必要な方に届きにくかったところだと思う。計画に、目に見える形で分かりやすくまとめられたことは大変喜ばしいことだし、羅針盤として活用されることを願っている。医師として、発達に心配のある子ども、不登校、虐待等、あらゆる子ども達と出会うが、やはり幼少期からの早期介入や支援が必要だと感じている。

- この計画が、今子育てをしている方々に分かりやすく、インターネットなどを使うなどして、きちんと伝わっていくと良い。また、現在は共働きの家庭も多く、子育てを祖父母に手伝ってもらっている場合も多い。父や母だけでなく、祖父母にも情報発信することも必要だと思う。他委員も発言していたが、やはり父親が子育てに携わることができるシステムがあると良い、と感じる。
- 民生児童委員として、「赤ちゃん訪問」を通して子育て世帯と関わっている。親子だけ、という核家族が増えており、相談できる人が身近にいない中、お母さんの話をじっくり聞いてあげる場が必要と感じている。そんな中、何でも困ったことがあったら相談できる窓口（すくすく相談）があるのは安心できる。また、「赤ちゃん訪問」で出会った子どもたちと移動児童館などで関わることは、成長した姿が見られうれしく思う。このような一貫した計画が推進され、「瀬戸市で子育てができて良かった」と思えるまちになると良いと思う。
- 計画に、事業や制度がまとまり、様々な方の意見が整理された。そして、いち早く「子ども・若者支援地域協議会」が設置されたことは素晴らしいこと。これにより、これまで以上に連携が円滑に進み、きめ細かい切れ目のない支援が継続できる。また、現在は虐待が注目されており、親にとっては子育てがしづらく不安な環境にある。楽しんで喜びを持って子育てしてもらえるような支援を民生委員さん等とも協力しながら今後も充実させて欲しい。
- ハローワークとしては、外国人が急増していると実感しており、瀬戸市の外国人の人口も増えている。計画（案）のp83に記載のある「外国人の子どもやその家族への支援」が皆で共有できることが、とても良い。また、第1回の会議の際にも発言したが、今、大学を卒業後、就職時、就職後に突然行き詰る若者が増えている。一歩社会に出た途端、いきなりつまづく方のうち、全てではないが、発達の疑いのある方が多く、もっと早い段階で気づき、支援し、その方なりの社会への一歩を支えることができれば、と思う。
- 外遊びの課題や子ども議会など、子ども・若者が中心となる計画が出来て嬉しい。あとは、この計画を地域の中でどう受けとめ、どう展開されるのかが大変重要だと感じており、自分自身も積極的に取り組んでいきたい。更には瀬戸市の第6次総合計画の達成、そして瀬戸市全体の成果に繋がっていくよう、尽力していきたい。
- 小学校での授業のあり方が昔と比べてすごく変わったと感じており、子ども達もとても楽しく生活しているように思う。しかし、中学校に行くと急に楽しくなくなる子が増えるようだ。そして、中学を卒業したその子どもが就職したり、高校へ入学したりする。その後、仕事を辞めたり、高校を中退した子ども達は、見守りがされているのかが不安である。
- 3年前から企業内保育所を運営しており、時間があるとよく保育所を見学に行く。子ども達は本当に忙しく動いており、保育士が一生懸命接している。これが、計画（案）p25にある「非認知能力を育む」ことだと実感する。この経験は、将来の子ども達の成長・発育に影響

を与える。しっかりと推進して欲しい。また、答申書の留意事項5の内容についてだが、既にやっているものもある。具体的には、商工会議所と連携して続けているキャリア教育事業。瀬戸法人会の「税金（租税）教室」。これは、子ども達が将来社会に出るための最低限の教育として、小学生を対象として毎年実施している。そして、新たに消防団の観閲式と同時開催した子ども祭りで行った「火育」。実際の火を使って消火訓練などをし、火が便利だけでも危険だということを実体験として体験させる取組み。この様な、取組をひろげ、推進して欲しい。

○大学の学生には、「保育指針」が大事だと教えている。保育指針も時代の変化に合わせて改定されているし、この計画（p25～27）に「保育指針」を取り上げた、ということが、大変有意義だと感じる。良いスパイラルとなるよう、計画を使って進めて欲しいと願う。

○「若者」には、これまでずっと支援が入らなかったのが、瀬戸市の支援拠点に「若者」が入ったことが大変重要。そしてインフラ部分について、「パルティセト」は、若い人が集まりやすい魅力的な場所であるので、是非活用して欲しい。また、計画は完成すると終わりのような感じになることが多いが、運用・活用が重要。まず、職員でしっかりと周知を図り、総合的な連携をして欲しい。市民は一人。一人の市民にトータルな支援を届けて欲しい。

○現在の日本は「子どもから大人になる」ことが感じづらい社会である。大人であることの承認感が得られない。民法が改正され18歳が大人、として扱われるようになるが、20歳の学生に聞いても「自分は子ども」だと言う。昔の日本は社会的な子育て、団体で子育てがされていたが、現代社会の中で核家族化し、子育てがその家族のみに任されるようになった。国連の子どもの権利委員会から日本への勧告が出されており、①これ以上ない競争的な社会となっていて異常である ②豊かな子ども時代が奪われている、といった内容のもので、「この異常な状態を何とかしなさい。」と国連から言われているのが現状。

委員の方々から出た様々な意見のように、父親が子育てに参画し、地域が関わり、のびのび、学校も授業も楽しく育つことが出来れば、瀬戸に愛着を持った大人になれるのかな、と感じる。

これまで「子育て支援」を充実させてきた瀬戸。では、「子育て」はどうか、と問い、「子ども」を主語にすることにこだわったが、この計画に反映されたことを嬉しく思っている。

この会議において、委員のみなさまと活発な意見交換ができたことに感謝している。

答申書と計画書を市長へ答申することについて、拍手により承認

（２）子ども・子育て支援事業計画（案）について

①・計画の位置づけについて、事務局より資料に基づき説明

・パブリックコメントの実施について、事務局より資料に基づき説明

②意見交換

⇒特に無し

若干の修正などは事務局に一任し、策定することについて、拍手により承認

(3) その他

- ・子ども・子育て会議保育部会の報告について、事務局より資料に基づき説明

(4) 子ども総合計画（案）の答申

- ・会長より、答申書を読み上げ、答申書を市長へ渡された。

2 市長あいさつ

これまで熱心にご審議いただき、本日、たくさんの留意項目をあげて答申をいただいたこと、大変感謝している。

子育て支援の相談窓口に多くの方が相談に来られることを受け、昨年度、新しくこども未来課を作り、子育て総合支援センターを立ち上げた。そうしたところ、相談の内容が多岐にわたっていること、相談者の年齢も幅広いこと、が分かったため、子ども総合計画を作ろう、と考えた。そう思い立ってから約1年、この計画が策定されることにより、瀬戸市の子ども政策は大きく転換することとなる。

①「子育て支援」中心の施策から、「子ども」を主人公に、「子ども」を柱にした政策へ転換し、進めていくことになる。

②各担当部署がそれぞれ取組んでいた状態から、「オール市役所」で取組み、更には「オール瀬戸」、まちぐるみで子ども・若者を見守り育てていくようになる。

そして、子どもの最善の利益が考慮されるよう、子どもの権利「生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利」を守っていく必要がある。

計画に書かれた各施策について、実施するプロセスを大切にし、マネジメントサイクルを管理していきたい。計画倒れにならないよう、推進していきたいと考えているので、皆様方にも引き続きご支援いただきたい。

健康福祉部長より、委員の再任について、説明

会議終了